

テレワークの種類	在宅勤務	モバイルワーク	サテライトオフィス	狙い	生産性向上	移動時間短縮	非常時の事業継続	顧客満足度向上	WLB向上	オフィス費用削減	通勤弱者対応	創造性向上	優秀な人材確保	省エネ・CO2対策
	○	○	△		○	○	○	○	○		○	○	○	

企業の概要

社名	ゾーホージャパン株式会社	都道府県	神奈川県
業種	情報通信業	従業員数	53名
事業概要	ソフトウェアの販売およびそれに伴う保守サービスの提供		

テレワーク実施概要

雇用上の規定	運用ガイドライン(テレワークの手引き)
テレワーク推進担当部門	総務部
テレワーク対象者	全組織/全職種/正社員・嘱託
実施者数	47名
実施日数	月平均6~7日

テレワークの導入・拡大の経緯

2015年より「スーパーフレックス制度」という名称でテレワークとフレックスタイムを足し合わせた制度を運用。事業の成長を加速することを第一の目的とし、業務場所と時間の自由度を高め、創造性を発揮し効果的に働く事をめざす。結婚、育児、介護等のライフイベントに柔軟に対応できるようになっただけでなく、今後はオフィス勤務を前提としない在宅雇用等により、障がい者を含めた幅広い人財を雇用できるようにすることにより、多様で優秀な人材が長く働ける環境とする。

テレワークの概要・特徴

場所:
効果的に業務ができ、勤務時間管理ができる場所であればOK
事前承認は必要

時間:
効果的に業務ができる前提で、8時から21時の間で自由
21時以降や8時以前に業務を行う場合は事前の申請と承認が必要

特徴:
自社クラウドサービスを利用して、電車での移動中などでも可能な、スマートフォンなどを使ったモバイルワークも許可
制度を悪用する可能性に基づいたルール作りではなく、性善説に基づいた運用

テレワーク導入の効果(経営にもたらした効果、その他効果)

社員が時間の使い方を工夫し、業務効率、プライベート生活充実、モチベーションに良い効果がみられている。

- 月平均残業時間数が2011年以降低下傾向。2015年の月平均残業時間数=14.5H
- 結婚、出産による退職者ゼロ。
- 2011年度以降の正社員の離職率低下。
- 社員のモチベーションが向上し会社運営の意図を理解し協力体制が出来た結果、2016年2月にGPTWのベストカンパニーに選出された

【働き方の具体例】

- ・集中して作業を進めたい時は自宅勤務を利用
- ・集中して作業したい時に自宅勤務や喫茶店での勤務
- ・毎朝10時くらいまで自宅業務を行い、その後、親の車通勤に同乗する。通勤の負荷と時間を短縮
- ・家族が病気の時や自分の体調が良くない時でも、柔軟に勤務時間の調節、かつ自宅勤務ができ、業務を進められる
- ・自宅勤務時は、移動時間が無いため、オフィス勤務では間に合わない夕食の用意ができる
- ・台風の接近時には、自宅勤務が出来るとの準備をしておき、天候や交通状況に応じて自宅勤務を行う。業務の停止なく、安全性も向上